

区自治協議会(第7期)を振り返って
～成果と課題～

(抜粋版)

新潟市区自治協議会会長会議

令和3年3月31日

はじめに

区自治協議会は、平成 19 年の政令市移行に伴う区政施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けたさまざまな取組みを重ねてきました。

本資料は、第 7 期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え、取組みを展開してきたか、またその取組みの結果・成果や、残された今後の課題などについて記録し、次期以降へと引き継ぐことで、今後の区自治協議会のさらなる活性化へとつなげることを目的に、作成したものです。

地域の特性・事情に応じた各区の工夫した取組みが記録されていますので、これからの区自治協議会委員におかれましては、自らの区はもちろん、他区の取組みについてもご一読いただき、今後の地域活動の一助にさせていただきたいと思えます。

また、巻末には、コロナ禍を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に関する情報共有」を掲載しましたので、こちらをご参照いただき、今後の活動に際して参考にさせていただきたいと思えます。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期 250 余名の委員の皆さまに感謝を申し上げます。

新潟市区自治協議会会長会議

座長 小田 信雄

目次

北区自治協議会

北区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	1
令和元年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	4
令和2年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	8

東区自治協議会

東区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	14
令和元年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	18
令和2年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	24

中央区自治協議会

中央区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	27
令和元年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	31
令和2年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	35

江南区自治協議会

江南区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	39
令和元年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	43
令和2年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	46

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	49
令和元年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	54
令和2年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	63

南区自治協議会

南区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	73
令和元年度南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	79
令和2年度南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	84

西区自治協議会

西区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	89
令和元年度西区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	93
令和2年度西区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	98

西蒲区自治協議会

西蒲区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	104
令和元年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	108
令和2年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	111

新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に

関する情報共有について（第7期から第8期へ）・・・・・・・・	114
--------------------------------	-----

北区から南区については省略

西区自治協議会（第7期）を振り返って

西区自治協議会会長 下川 照雄

1 はじめに

人口減少や少子超高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、運営方針を定め、西区自治協議会として重点を置く地域課題を「支え合いの取り組みの輪を広げる」「管理不全な空き家にしないための取り組み」「地域の担い手育成（自治会・民生委員・児童委員）等」「区の魅力発信・賑わい創出」の4つとし、取り組みました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、地域におけるさまざまな活動が制限を余儀なくされましたが、区自治協議会の協働の要としての役割を停滞させることの無いように、委員一人ひとりが地域課題解決に向けたアイデア出しや事業の広報活動等できることを行い、かつ地域活動団体と協働して課題解決に着実に取り組みました。

第8期の西区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第7期の成果や取組みをここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 本会について

ア 支え合いの取り組み（降雪時等）の輪を広げるための検討

平成30年1月の大雪を踏まえ、前期では改めて互助について考え、互助の実例を共有し、課題を洗い出しました。今期では、課題解決に向けて区自治協議会として取り組めることを検討しました。

この検討から、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」で、地域で取り組めることや降雪時に個人で取り組めそうなことを発信することや、「支え合いの大切さ」に気づいてもらうきっかけとして、令和2年度区自治協議会提案事業で支え合いの大切さを広める標語等募集事業を実施しました。

支え合いの取り組みの輪を広げたことで、令和3年1月の大雪の時には地域の人が協力して除雪し合う姿が確認できました。

イ 区自治協議会で議論する内容の所属団体等へのフィードバックの方法について情報共有

委員の所属団体等への情報共有の方法について話し合い、所属団体の会議の場や活動の場を活用して報告しているほか、友人や家族、趣味の会、学校で会う保護者など身近な人にも伝えているといった現状を共有しました。

「地域の代表であり、区自治協議会での議論を団体へ持ち帰り、活動へ生かす」という、委員の役割を再認識し、各委員で取り組めるものから取り入れてもらうこととしました。

ウ 西区自治協議会委員研修会の実施

西区自治協議会では、第 7 期に区独自の委員研修会を 2 回実施しました。

令和元年度は、市の浸水対策の取組みについて理解を深めるために、西区内で行われている浸水対策工事の見学を行いました。

令和 2 年度は、西区の魅力である砂丘について、当協議会の澤口委員（新潟国際情報大学教授）が講師となり、座学での研修を行っていただきました。新潟砂丘の成り立ちや他の砂丘地との対比など、参加した委員が砂丘についての知識を深め、それぞれの所属団体等へ戻った際に西区の魅力を広めることのできる研修会となりました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第 1 部会

第 1 部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

第 7 期では、重点的に取り組む地域課題であり、防犯、住環境分野である“管理不全な空き家にしないための取り組み”をテーマに活動を行いました。具体的な取り組みとしては、空き家に関するシンポジウムを開催しました。また、空き家について家族で話し合うことの大切さを伝えるポスターと映像を作成し、啓発活動に取り組みました。

イ 第 2 部会

第 2 部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第 7 期では、重点的に取り組む地域課題である、地域の担い手育成（自治会、民生委員・児童委員）や保健・福祉分野である支え合いのしくみづくりの輪を広めることをテーマに事業募集を行いました。また、平成 30 年 1 月の大雪をきっかけに、本会で普段から支え合える地域となれるように区自治協議会として取り組めることを検討したアイデアをさらに深め、「支え合いの大切さ」を広める標語募集事業に取り組みました。

ウ 第3部会

第3部会は、産業、区の魅力発信、交通分野を所管する部会です。

第7期では、重点的に取り組む地域課題である区の魅力発信・賑わい創出をテーマに事業募集を行い、地域活動団体とともに課題解決に向けて取り組みました。

また、区の魅力をワークショップ形式で洗い出し、まずは委員自身が魅力を実感する機会として、西地区内野で新川開削の歴史を座学で学んだほか、黒埼地区木場のまちあるきを実施しました。また、次期に向けてInstagramを活用した魅力発信に試験的に取り組みました。

エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第7期に6回発行したほか、西区だよりで、区自治協議会特集を2回掲載いただきました。構成にあたっては、多くの方に読んでもらえるように、特集や連載企画を織り交ぜながら、手に取ってもらえる紙面づくりを心掛けました。

SNSに広報紙の記事を掲載することで、紙媒体では情報が行き届かない方への情報発信につなげることができたほか、クロスワードパズルを掲載し、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む個人や団体の発表の場として、西区アートフェスティバルを年1回開催しました。これまで以上に新潟大学との連携を深めるため、事業を融合して「+音届（プラスおとどけ）」として親子参加型のイベントやコンサートを実施しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、4つの重点的に取り組む地域課題を定め、それらの解決に向けた事業を

地域活動団体から募集して協働することにより、限られた時間の中でも、課題への審議を深め効率的に取り組むことができました。

来期も同様の手法をとることで、効率的かつ効果的に地域課題の解決に取り組んでいただきたいと考えています。

また、部会では活発な議論ができた一方で、本会では活発な意見が出づらい状況にありました。このことから、次期は進行や議題への理解が深まるような工夫や、本会で活発に意見交換が行えるような改善が行われることを期待します。

第8期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	西区自治協議会シンポジウム 「空き家対策は地域づくり～迷惑空き家にしないための取り組み～」 【事業費予算 500千円】
事業目的・概要	市民と市との協働の要として役割を果たしてきた西区自治協議会において、区自治協議会の活動を発信し、地域課題の解決に向けて、下記テーマにより、地域と共に考えるきっかけとなるようなシンポジウムを開催した。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数 など)	西区自治協議会シンポジウム 【日時】 令和元年11月10日(日) 午後2時40分～3時50分 【会場】 西新潟市民会館2階多目的ホール 【テーマ】 「空き家対策は地域づくり～迷惑空き家にしないための取り組み～」 【内容】 区内自治会の取り組み事例や他都市の地域での空き家見守り活動等、実際に取り組みを行っている方からパネルディスカッション形式でお話いただいた。 【参加者】 140名
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 多くの地域で、所有者が分からなく、管理が行き届かない「迷惑空き家」、いわゆる迷惑な空き家についてさまざまな悩みを抱えていると聞いており、地域での空き家見守り活動など、実際に取り組みを行っている方々から話を伺うシンポジウムを開催した。</p> <p>【アンケート結果】 1. 調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 2. 回答：106名 (1) 本日のシンポジウムはいかがでしたか [非常によかった・よかった] … 90.6% (2) 内容はいかがでしたか [大変参考になった・参考になった] … 91.5%</p> <p>〈主な感想〉 ・空き家の予防として、住民同士と自治会との良好な関係が必要だとわかった。 ・当事者の具体的な取り組みが聞けて良かった。 ・自治会内で意見交換してみたい。</p> <p>【気づいた点】 ・一旦、迷惑空き家になってしまうと、ねばり強い繰り返しの対応が必要となり大変だということがパネラーの苦労話を聞いてわかった。 ・迷惑空き家になる前の取り組みが大切と改めて感じた。 ・あいさつや声がけなど近所づきあいが基本。住んでいる時期も含めて所有者と良好な関係が大切ということがわかった。 ・空き家のリーフレットやさわやかトーク宅配便等を活用し、市の取り組みを知って欲しい。</p> <p>【成果と課題】 ・アンケートの結果、「よかった・参考になった」との声が9割を超えた。地域での空き家見守り活動など実際に取り組みを行っている方々の話を聞いてもらうことで空き家についての現状や課題について伝えることができた。 ・管理不全な空き家にしないため、所有者への意識啓発が必要と感じた。 ・区内の約1/4の自治会から参加いただいた。さらに多くの方へ知ってもらうために周知方法に工夫が必要と考える。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題解決に向けた事業募集 【事業費予算 1,500 千円】
事業目的・概要	人口減少・少子高齢化の進展など社会経済情勢の変化や住民ニーズの多様化に伴い、地域課題が複雑化する中、地域の状況を的確に捉え、課題解決に向けて一層きめ細かに対応していくため、地域課題の解決に取り組む団体から、より高い効果が得られる事業を募集し、西区自治協議会と協働して実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>①事業テーマ 地域の担い手育成(自治会、民生委員・児童委員)等</p> <p>【事業名】地域内の関係づくりと自治活動への参加を促す行事カレンダーづくり 【実施団体名】NPO法人まちづくり学校 【日時・会場】行程1 地域活動見直しワーク研修会 令和元年10月23日(水)午後7時～午後9時 西区役所健康センター棟1階104・105会議室 行程2 行事カレンダーづくり 令和元年12月2日(月)～令和2年2月5日(水)計4回(事前打合せ) 内野平和台自治会館</p> <p>【対象】西区内自治会 【内容】自治会向けの研修会、内野平和台自治会と行事カレンダー作成 【参加者】地域活動見直しワーク研修会 27自治会37名 行事カレンダーづくり 当該自治会:5名、見学:13名(6自治会7名、他6名)</p> <p>②事業テーマ 支え合いのしくみづくりの輪を広げる取り組み</p> <p>【事業名】「プログラミング教育」を通じた教育支援環境の構築と人材活用 【実施団体名】大人向けプログラミング勉強会 【日時・会場】保護者講座 令和元年12月21日(土)～令和2年2月29日(土)計5回 新潟大学、健康センター棟3階大会議室、黒埼南部公民館 ほか 課外講座 令和元年11月28日(木)～令和2年1月31日(金)計14回 五十嵐小学校PCルーム</p> <p>【対象】西区内の小学4～6年生、保護者 【内容】学習指導要領に示されたプログラミング教育に用いられる3つの手法を体験 【参加者】164名(保護者講座:5回143名、課外講座:14回21名)</p> <p>③事業テーマ 区の魅力発信・賑わい創出</p> <p>【事業名】西区の歴史・文化・技術の記憶を200年後の未来の人々へつなぐ 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】開削200周年を迎えた「新川」の歴史を紹介する映像を作成 ・上映会 令和2年2月15日(土)午後2時～内野まちづくりセンター ・DVDを区内を中心に小中学校へ配布・貸出用として図書館に設置 【参加者】上映会 約280名(会場内200名、ロビー80名) 会場に入れずお帰りになった方 約50名</p>

(次頁に続く)

<p style="text-align: center;">事業の評価</p> <p style="font-size: small;">〔地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性 ・効率性の評価など〕</p>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 重点的に取り組む地域課題を抽出し、それらの解決に資する提案を公募し、提案団体と協働して実施した。</p> <p>【アンケート結果：一部抜粋】</p> <p>①回答：29名（研修会参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容についての満足度[とても満足・満足]…34% [どちらとも言えない]…48% →理解できなかったとの意見もあったため、補足資料を送付し内容を補完した。 行事カレンダーづくりを実施した自治会 ・各世帯に配布することで、自治会の活動計画等が日々目に入り、自治会に対する関心は増えるものと思われる <p>②回答：141名（保護者講座参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生や地域の大人からの指導は楽しかったか[とても楽しかった・楽しかった]…91% ・体験会が地域で開催されたら、また参加したいか[参加したい・どちらかといえば]…89% <p>③回答：64名（上映会参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上映会の感想[とても良かった、良かった、普通]…86% ・今年が新川開削から200年であることを知っていたか[知らなかった]…50% ・内容を家族や知人に伝えていきたいか[伝えたい]…94% <p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウのある地域活動団体と協働することで、効果的に課題解決ができた。 ・これまで持ちえなかった発想を活かした課題解決ができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協・事務局と提案者の間で、課題解決の手法に対するイメージのズレていたため、期待する手法の更なる詳細審議が必要。
<p style="text-align: center;">備考</p>	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	第7回西区アートフェスティバル+音届 【事業費予算 1,800 千円】
事業目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区全体の文化風土を耕して区民の一体感を醸成する。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいる団体等に発表の場を提供し、幅広い区民から知ってもらおう。 ・大学の存在をはじめ、学術・文化豊かな西区のパワーを発信する。 ・西区の魅力を発信する。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・音楽芸能団体の発表の場として、また、西区にちなんだ多様なアート作品展示により、西区の宝を共有するイベントを開催し、併せて、新潟大学の学生が企画・運営した親子で楽しむ参加型のクラシックコンサートを開催。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><音楽・芸能部門> 令和元年10月27日(日) 13:30~16:00 西新潟市民会館多目的ホール 【出演団体】7団体、102人 《合奏、合唱、芸能、ダンス、特別ゲスト、ロビー演奏》</p> <p><アート展示部門> 令和元年10月26日(土) 13:00~17:00、10月27日(日) 9:00~16:00 西新潟市民会館ギャラリー 【作品内容】 ①新潟大学工学部による体感するアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品</p> <p><おやこでクラシック> 令和元年10月27日(日) 10:00~10:40、11:20~12:00 西新潟市民会館大会議室 小学生以下のお子さんと保護者を対象とした親子参加型のコンサート</p> <p><来場者>:延べ750人(うち、おやこでクラシック171名)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒埼地域の3地域で構成されており、各地域の文化活動は盛んだが、西区が一体となった文化活動が見られなかった。そこで、西区で音楽芸能活動やアート作品の制作に取り組んでいる団体に総合的な発表の場を創出し、区民の一体感を醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】 ◆調査方法:来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 ◆有効回答:206名(有効回答率35.4%) ➤アートフェスティバルはいかがでしたか 【とても良い…60.2%、まあまあ良い…22.8%、ふつう…2.4%、やや不満…0.5%、不満…0.0%、無回答…14.1%】</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの出演団体を織り交ぜ、最初から最後まで楽しんで観ていただくことができた。 ・新たな試みのロビー演奏は、間近で演奏を聴けて良かったとの声が聞かれた。 ・例年と会場が異なり駐車場スペースが少なかつたにも関わらず、一定の入場者を確保することができた。 ・アート展示について、ギャラリースペースがある会場だったので展示や照明の当て方を工夫でき、来場者から好評の声を多数いただいた。 ・障がい者が制作したアール・ブリュット作品や区内小学生の自由研究優秀作品について、出品数を増やすことで、多くの方から自身の作品展示を喜んでいただくとともに、関係者からも多数ご来場いただいた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部演奏途中の退席や私語などが見受けられたので、表示やアナウンスなど工夫する必要がある。 ・アート作品展示では、作品の説明や障がい者施設などの紹介など、来場者に分かりやすいよう工夫する必要がある。 ・引き続き、新規の企画内容を盛り込む等マンネリ化を防ぐ工夫と、より一層PRに努める必要がある。

(次頁に続く)

	<p>○おやこでクラシック 【地域課題の抽出とその解決策】 親子向けにクラシックをより身近に感じてもらえるよう、需要のある親子参加型のコンサートを開催した。新潟大学の学生が企画・運営し、学術・文化豊かな西区の魅力を発信できた。</p> <p>【アンケート結果】 ◆調査方法: 来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 ◆有効回答: 87名(有効回答率50.9%) ➤おやこでクラシックはいかがでしたか [非常に良い…40.2%、良かった…54.0%、どちらともいえない…0.0%、良くなかった…0.0%、無回答…5.7%]</p> <p>【評価(成果)】 ・0歳から3歳児の親子連れの参加者が多く、その世代に合ったプログラムで非常に良かった。 ・小さい子どもと一緒にに行けるコンサートが少ないため、参加者から大変喜ばれた。</p> <p>【改善点】 ・体験楽器や装飾品があると良かった。 ・会場の準備時間を十分に確保する必要がある。</p> <hr/> <p>○事業全体 【評価(成果)】 ・初めて自治協議会と大学が共催で実施し、地域と学生との連携によりイベントを遂行することができ、学生にとってもいい学びの場となった。 ・大学と連携することにより、様々な世代に喜ばれる企画を盛り込み、機能的に事業を行うことができた。 ・自治協委員や学生が運営スタッフとして携わり、また、部会長もナビゲーターとして次のステージのつなぎ役として努めたことにより、より楽しく親近感のあるイベントとすることができた。</p> <p>【改善点】 ・来場者が1つだけでなく多数の企画に参加しやすいような工夫が必要である。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	管理不全な空き家にしないための取り組み 【事業費予算 500千円】
事業目的・概要	私たちの周りには、様々な地域課題（困りごと）があります。西区自治協議会では、管理不全な空き家を増やさないために、管理不全な空き家にしないための啓発事業に取り組みます。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>1 啓発内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いま住んでいる家も空き家になる可能性があるということ ・管理のために気を付けなければならない項目 ・将来のことや相続のことを家族で話し合っておく大切さ ほか <p>2 手法</p> <p>ポスター等を用い、委員一人一人が啓発活動に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知ポスター作成（コミ協、自治会を通じて掲示、公共施設へ掲示） ・周知映像の作成（コミ協に配布ほか） ほか
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性 ・効率性の評価など</small>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】</p> <p>多くの地域で、所有者が分からなく、管理が行き届かない「迷惑空き家」、いわゆる迷惑な空き家についてさまざまな悩みを抱えていると聞いている。昨年度開催したシンポジウムや勉強会を踏まえ、管理不全な空き家にしないため伝えたいことをまとめ、映像やポスター等作成し啓発活動に取り組んだ。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家問題の中でも管理不全な空き家にしないための取り組みに焦点を当てて取り組んだことが良かった ・ポスターや映像を通じ、啓発活動を行うことができた。 ・空き家に関する問題意識を持ってもらうことができた。 ・インパクトのある、意図の伝わるポスターが作成できて良かった。 ・持ち主が分からない等の迷惑空き家の悩みは続いている。 空き家の利活用など継続的な市の取り組みも必要と思う。 ・作成したポスターや映像を活用して、継続的な啓発の取り組みが必要。 引き続き、会合等で啓発していきたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	「支え合いの大切さ」を広める標語の募集 【事業費予算 500 千円】
事業目的・概要	「支え合いの大切さ」を広め普段から支え合える地域となるために、標語を募集して、応募をきっかけに「支え合い」について考えてもらう。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>募集対象 西区内に在住、在勤又は在学する者</p> <p>募集期間 6月1日～8月31日</p> <p>応募数 186点</p> <p>選定方法 第2部会で審査</p> <p>入賞等 最優秀賞1点、優秀賞6点を選定 入賞者に、賞状及び副賞として新潟市共通商品券(最優秀賞3,000円、優秀賞1,000円)を贈呈</p> <p>周知等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区役所ホームページ掲載 ・標語入賞者表彰式10月30日 参加者 約50名 ・新潟日報11月21日掲載 ・西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」第34号 50,220部 ・西区役所健康福祉課発の封筒への印字 ・使用基準を定めた
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性 ・効率性の評価など</small>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】</p> <p>平成30年1月の大雪を機に、地域での支え合いの大切さが再認識された。このことを普段から意識してもらうことで、有事だけではなく普段から支え合える地域となることができると考え、意識するきっかけとして標語を募集した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標語の応募に際し、186名の方が「支え合いの大切さ」について深く考えた。 ・募集チラシ10,000部や自治協広報紙50,220部の配布などにより、多くの方が「支え合いの大切さ」を再認識するきっかけとすることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支え合いの大切さ」をより浸透させていき、区民の行動変容につながるように取り組む必要がある
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題解決に向けた提案募集 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	人口減少・少子高齢化の進展など社会経済情勢の変化や住民ニーズの多様化に伴い、地域課題が複雑化する中、地域の状況を的確に捉え、課題解決に向けて一層きめ細かく対応していくため、地域課題の解決に取り組む団体から、より高い効果が得られる事業を募集し、西区自治協議会と協働して実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>①事業テーマ 地域の担い手育成(自治会、民生委員・児童委員)等 採択事業なし</p> <p>②事業テーマ 区の魅力発信・賑わい創出 【事業名】新川と内野の魅力をQRコードで情報発信し、まちおこしにつなぐ事業～新川の歴史と“共助”のこころを、200年後の人につなぐ～ 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】越後新川まちおこしの会が西区の湛水地帯を穀倉地帯に変えた「新川開削」について調査し、新川の歴史と意義を広報してきた看板等にQRコードを貼り付け、訪れた人にスマートフォン等によりその情報を読み取ってもらうことで、過去の情景やイベントの実況を体感してもらった。 越後新川まちおこしの会ホームページを作成。 QRコードを内野まちづくりセンターにて展示中の底樋模型や越後新川まちおこしの会が作成した看板等に貼り付けた。 (QRコード貼り付け場所は順次拡大予定)</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 西区内の地域課題解決に向けて、重点的に取り組む地域課題を抽出し、それらの解決に資する事業を公募し、提案団体と協働して実施した。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案団体である越後新川まちおこしの会ホームページを立ち上げ、アクセスした方に当事業で貼り付けるQRコードで読み取ることのできる過去の状況やイベントを読みとってもらうことができた。 QRコードの応募に際し、応募者それぞれの視点で「面白そうだ」「読み取りたい」と思わせるような作品を作るために、西区について深く考えた。 本事業で作成したホームページや貼り付けたQRコードは区の魅力を発信し続ける財産として今後も活用し、情報発信を続けることができる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業の周知にかける時間が不足していたため、十分に魅力の浸透を図ることができなかった。 <p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノウハウのある地域活動団体と協働することで、効果的に課題解決ができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治協と提案団体の間で課題解決の手法に対するイメージのズレが生じていたため、提案団体に求める解決課題について詳細な審議が必要。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域の担い手育成等 【事業費予算 500千円】
事業目的・概要	多くの自治会・コミ協が担い手不足や担い手育成の課題を抱えている現状に寄り添い、担い手不足等の解消のヒントとしていただく取り組みを実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1)自治協委員が住んでいる地域等の現状（情報）を把握するため委員アンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会やコミ協の役員等の決め方等の現状や課題 担い手不足解消や担い手育成等のヒントとなる取り組み事例 <p>(2)持ち寄った情報をリーフレットにまとめ、自治協委員が地域等に持ち帰り、情報を共有した。</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出とその解決策】</p> <p>多くの地域で、担い手不足等についてさまざまな悩みを抱えていると聞いている。 今年度は、まずは委員の住んでいる地域の現状を把握するために委員アンケートを実施し、課題解決のヒントをまとめ、周知した。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域の担い手育成等」をテーマに事業募集したが採択しなかったため、担い手不足等について課題解決のヒントとなる事例を集め、まとめた。 引き続き担い手不足について課題解決のアイデア出しを行い、その内容をもとに地域の担い手育成に向けた取り組みを行いたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	第8回西区アートフェスティバル+音届 【事業費予算 1,750 千円】
事業目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区全体の文化風土を耕して区民の一体感を醸成する。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいるアーティスト等に発表の場を提供し、幅広い区民から知ってもらおう。 ・大学の存在をはじめ、学術・文化豊かな西区のパワーを発信する。 ・西区の魅力を発信する。 ・コロナ禍の中、さまざまなイベントが中止となる中、区民に元気を与えたい。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・音楽の発信の場として、また、多様なアート作品展示により、西区の宝を共有するイベントを開催。併せて、新潟大学の学生が企画・運営した親子で楽しむ音楽イベントを開催。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><西区ゆかりのアーティストによるオンラインコンサート> 令和2年11月8日(日) 14:00~15:30 【出演団体】第1部 田辺千枝子(ソプラノ) 山際規子(ピアノ)、第2部 史佳Fumiyoshi(三味線) 【動画配信】コンサートの様子を新潟シティチャンネル (YouTube) で配信</p> <p><アート展示部門> 令和2年11月7日(土)13:00~17:00、11月8日(日)9:00~16:00 黒崎市民会館 【作品内容】 ①新潟大学工学部によるアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 【動画配信】作品の一覧を新潟シティチャンネル (YouTube) で配信</p> <p><ミュージックパラダイス~音の世界へ飛びこもう! ~> 令和2年11月8日(日)10:30~11:10 小学生以下のお子さんを対象とした親子で楽しむオンライン参加型イベント</p> <p><来場者・参加者延べ人数等>:1,143人(アート展示部門240人、オンラインコンサート80人、ミュージックパラダイス20人、動画配信(令和3年3月15日現在)アート展示部門364人、オンラインコンサート496人)</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企 画立案の評価 事業の公益性・実効性・効 率性の評価など</small>	<p>◎アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒崎地域の3地域で構成されており、各地域の文化活動は盛んだが、西区が一体となった文化活動が見られなかった。そこで、西区出身で音楽活動やアート作品の制作に取り組んでいる方に総合的な発表の場を創出し、区民の一体感を醸成を図った。</p> <p>○オンラインコンサート 【アンケート結果】 ◆調査方法：オンライン回答 ➤オンラインコンサートはいかがでしたか [とても良い…78.9%、まあまあ良い…15.8%、ふつう…0.0%、やや不満…5.3%、不満…0.0%]</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でできる事業を実施しようと、オンラインコンサートと新潟シティチャンネル (YouTube) で動画配信を行った。自宅にいながらでも安心して西区出身アーティストの音楽を楽しんでいただくことができた。 ・オンラインでは、普段では見られない演者の手元や衣装の質感など、細かいところまで見ることができたのが良かった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの開催ということで参加者が少なく、情報発信の手法や周知期間について見直す必要がある。周知期間については、コロナの影響で開催内容調整に時間がかかってしまい短くなってしまった。早めに事業内容を決定する必要がある。 ・視聴者のネット環境によるものだが、音が途切れたとの声があった。

(次頁に続く)

	<p>○アート展示部門</p> <p>【アンケート結果】</p> <p>◆調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。◆有効回答：240名</p> <p>➤アート展示部門はいかがでしたか</p> <p>[とても良い…40.8%、まあまあ良い…24.1%、ふつう…2.5%、やや不満…0.0%、不満…0.0%、無回答32.6%]</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アート活動をしている大学生、障がいのある方、小学生に発表の場を提供し、また、多くの方に様々なジャンルのアート作品に触れていただくことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品への案内をわかりやすいよう、案内図や空間づくりを工夫する必要がある。 <hr/> <p>○ミュージックパラダイス(子どもを対象としたオンライン音楽イベント)</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で様々なイベントが中止となる中、オンラインで安心してイベントに参加いただけた。 ・大学生が子ども目線に立ち、事業を企画・実施したことにより、学生にとってもいい学びの場となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの開催ということで参加者が少なく、情報発信の手法や周知期間について見直す必要がある。
備考	

新型コロナウイルス感染症による 区自治協議会の諸課題に関する情報共有について (第7期から第8期へ)

第7期新潟市区自治協議会会長会議

平成から令和へと新しい時代を迎え、新潟市においても新たな時代への期待が高まる中、令和元年度末から2年度にかけ新型コロナウイルス感染症（以下、感染症という。）が拡大の一途を辿っています。そして、その影響は地域における人と人とのつながりや日々の活動にまで及び、これまでの物ごとに対する概念が覆される事態となっています。

一方、このような状況下において、世の中全体でさまざまな場面において今取り組んでいることを見直す機会と捉える機運も見えています。

第7期においても、感染症により諸活動の自粛、縮小が続き、各活動等について見直しを行い、着眼点を変えて実施しました。コロナ禍の中での第8期の引継ぎに向け参考となるべく、各区で意見交換及び情報共有したものを、会長会議で集約しましたので、今後の運営並びに活動の参考としていただければ幸いです。

1 提案事業について

(1) 「withコロナ」時代に対応した提案事業のあり方について

ア この世情における提案事業への期待

○人との関わりの分断を余儀なくされ、交流が制限されている。人と人をつなぎ、みんなが元気に明るくなれるような事業を実施していければ良い。

イ 意識改革の必要性・継続性

○地域課題は単年度で解決する問題ではなく、事業終了後も必要に応じて他団体等に行ってもらうなど、継続性も考えていかなければならない。

○提案事業により地域課題の解決を図るには、委員のみではなく、コミュニティ協議会など他の団体等と協働して実施していくことが必要である。

そのためには、日ごろから連携を密にするとともに、地域の声を集約し、区自治協議会での議論等を地域へ持ち帰る「地域代表」の役割が重要である。

○イベント中心・事業ありき・予算を使わなければもったいない等の考え方を換え、地域課題の解決に向けた取組みを委員自らが検討し、課題の調査研究や事業の企画・運営をすることで、柔軟に取組内容を見直せる。そのために、具体的な事業内容は、新年度に実際に行う委員たちで決めるほうが良い。

○一方で、イベント事業の実施は区自治協議会の認知度向上に一定程度寄与してきたと思われる。

参考：第47回（令和2年度）「市政世論調査」結果（概要・市全体）

居住している区の「区自治協議会」について、

- ・名前も活動内容も知っている：17.4%
- ・名前だけ知っている：27.7%
- ・知らない：52.8%
- ・不明、無回答：2.1%

ウ 提案事業制度の整理・検討、運用にあたって留意する点

○この機会に再度、提案事業の課題や必要性を整理・検討し、「区自治協議会の果たす役割は何か」を区ごとに確立する必要がある。

○具体的な事業内容の検討にあたっては、区の特徴を設定した上で、区の強みを活かした発信、人・物の資源の活用を検討する。

○実施する場合は、次項「(2) 実施に向けた検討のポイントについて」で挙げたように、「withコロナ」を考慮して企画実施していく。

(2) 実施に向けた検討のポイントについて

ア 現状及び未来に向けてできることの把握と実施

○目的を変更せず、その達成に向けて手段を変更するなど柔軟に対応し、できることから始めていく。

例：予定していたイベントを中止し、当該地域課題に係る普及啓発活動、調査研究を行う。あるいは、オンライン開催、動画の制作・配布など、同様の効果が期待される代替的な取組みを行う。

○関係するガイドライン等により、必要十分な対策を講じた上で実施する。

イ 弾力的運用の活用と推進（区内の地域活動を行う団体（以下「地域団体」とする。）への事業募集）

○感染症の状況下においても実践可能な活動事例を区自治協議会だより等で紹介し、地域団体による活用につながるよう、情報発信に努める。あるいは、地域団体と共に事業内容等を検討する。

○感染拡大の状況等を鑑みて追加募集を行う。

2 防災強化に向けた課題や取組みについて

(1) 個人や家庭でできること及び集団でできる防災訓練の見直し

ア 感染症の状況下で、従来の一堂に会する防災訓練は難しくなっており、災害時にしっかり運営できるかが課題である。

- ⇒避難所に集まる以外に、地区の班などの小さな単位で各家庭の避難計画を話し合い、互いに承知する機会をつくるよう働きかける。
- ⇒既に国内でコロナ禍でも避難所を開設したところの経験を聴くほか、実際の運営のシミュレーション等が求められる。
- ⇒区全体の防災訓練が年に一回実施できる体制づくりが必要である。

- イ 30～40歳代の若い世代は行事などの参加があまりない。
 - ⇒学校と地域と一体になって訓練の実施ができると若い世代とも顔の見える関係ができるのではないか。

(2) 情報格差の解消

- ア 新しい生活様式に沿った最新の災害対策情報を防災訓練以外で、情報格差を起さずに周知していく必要がある。
 - ⇒動画などの映像配信、テレビ、ラジオなどのメディア、チラシなどを使った情報提供、必要な知識を習得するための啓発活動ができるのではないか。

(3) 防災意識の向上

- ア 感染症対策として、避難所にこだわらない安全な場所への避難が多くなり、自助、近助、共助が重要となっていく。
 - ⇒地域のリーダーを育成するとともに、顔の見える関係づくりを意識したハザードマップ勉強会などで防災意識を高めてもらう。
 - ⇒防災士の育成に注力する。

- イ 自主防災組織が組織されていないことや自治会長が毎年変わることなどの理由から、自治会ごとに防災意識への温度差がある。また、自治会長から、どんな取組みをしたら良いか分からないといった声が聞かれる。
 - ⇒区役所が把握している、各自主防災組織が開催する防災訓練情報（いつ、なにをやるかなど）を地域の防災士や自治会などにも共有することで、お互いの防災訓練などを見学に行くことができるようになり、防災士・自治会同士のつながりや訓練内容の勉強などができるのではないか。
 - ⇒区がモデルとなるような訓練を取り上げ、事例紹介することで、自主防災組織の立ち上げや活動内容の勉強につながるのではないか。

(4) その他

- ア 避難所運営にあたっては、区自治協議会として、高い関心をもって区役所に対し意見を述べていく。ただし、地域住民の代表、避難所施設の管理者及び行政職員（避難所指名職員）が集まり、避難所運営について話し合う避難所運営体制連絡会が毎年実施されていることから、敢えて現場レベルの議論に

ついて積極的な介入は行わない。

- イ 避難行動要支援者と住民の見守りに関する、より効果的なあり方について、地域に即した対応方法を模索する。

3 会議の開催方法、それによる新たな体制・運営の確立について

(1) 区自治協議会をオンライン開催する場合の課題と、それをクリアする方法

ア 機器・ネットワーク環境等の整備

○必要な設備、環境を有していない委員の参加が課題となる。

⇒事前に委員の機器・ネットワーク環境に関する調査が必要である。

⇒あらかじめ指定した拠点から出席してもらう。

⇒全員がオンラインで出席するのではなく、可能な人のみオンラインで出席できる方式とする。

⇒ウェブカメラの貸し出しや会議室の必要機材の確保など、オンライン会議開催に適した環境を構築する。

⇒機器を用意するための助成または貸与の制度が必要である。

イ 機器等の操作研修

○慣れていない人からすると、パソコン操作、運用等が不安に感じる。

⇒事前研修の実施や、通常開催とオンラインを同時開催にして慣れていく。

ウ 会議運営方法の検討

○中身のある白熱した議論ができるのか課題。

⇒全員がオンラインで出席するのではなく、可能な人のみオンラインで出席できる方式とする。

⇒通信環境などにより、会議が中断してしまうことがあるため、会議の進行・資料の共有など事前の準備をきちんとしておくことが必要である。

○オンライン会議用のソフトウェアの設定や利用の習得、オンライン会議進行のルールづくりが課題となる。

⇒不測の事態により開催できない状況を見据え、ペーパーレスで会議を開催するなど普段から端末を利用した会議に慣れておく。

エ その他

○課題が多く、整備も必要となるため、メリット及びデメリットを整理して可能な部分から段階的に取り組み、新しい時代の区自治協議会のあり方を検討していくべきである。

○感染拡大状況によって、2分割会議（リモート出席と対面出席の併用）と書面開催を柔軟に判断する。